

行燈山古墳(天理市)

あんどんやま

前方に見える墳丘が行燈山古墳の前方部



そこへ近寄ると拝所が見えて来た

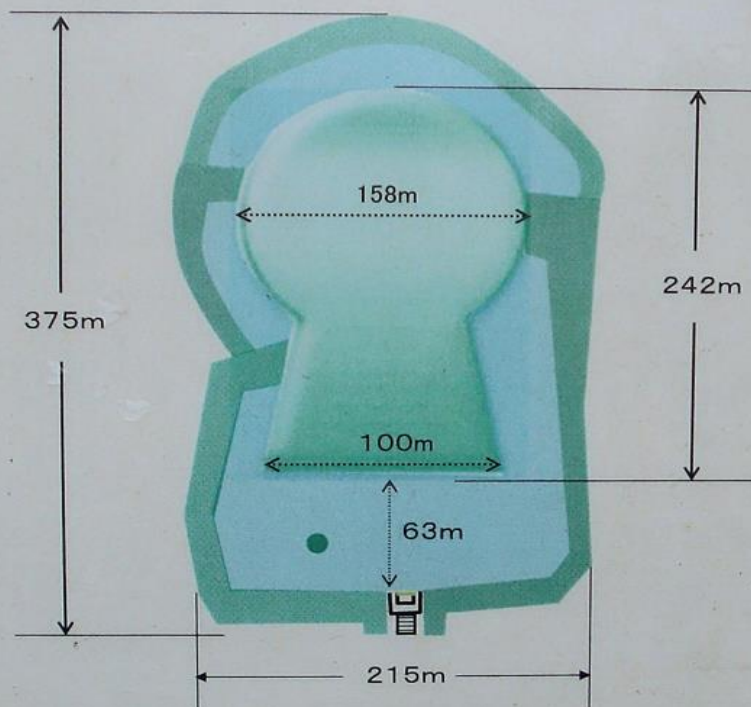


お約束の宮内庁のお触書



説明板/4世紀前半の築造とされる

崇^す神^{じん}天^{てん}皇^{もう}山^{やま}辺^{のべ}道^{みち}勾^の岡^{まがりの}上^{おか}陵^{えの} (行^{みささぎ}燈^{あん}山^{どん}古^{やま}墳^{こふん})



第10代崇神天皇は第9代開化天皇の第二子で、母は皇后伊香色謎命(いかがしこめのみこと)と伝えられています。

御陵は前方部を北西に向けた前方後円墳で、大和古墳群のほぼ中央に位置しております。龍王山西麓の緩斜面に築かれたため、東西で高低差が生じており、そのため周濠が合計3ヶ所の渡土堤によって区画されています。

墳丘は後円部・前方部共に3段築成と考えられており、埴輪・土器が出土しています。外周には高く積み上げられた堤が廻りますが、これは江戸時代末に柳本藩が行った、修陵事業によるもので古墳築造当時の姿とは異なっているようです。

拝所



左手から周濠を見てみよう



ここまでしか行けないが・・・



そこで、左手を見たところ



同じく、右手を見たところ



これは拝所の手前辺りに所在する陪塚の南アンド山古墳/行燈山古墳と同時期の前方後円墳



同じく、拝所の手前辺りに所在する陪塚のアンド山古墳/行燈山古墳と同時期の前方後円墳



景行天皇の墓とされる渋谷向山古墳との位置関係



さて、行燈山古墳は宮内庁も治定している通り、崇神天皇の墓とされているようだ/諸説あり、行燈山古墳の墳形が前方部が少し開く箸墓古墳・西殿塚古墳の系譜を引いており、女性の墓ではないかとの見解から、崇神天皇の墓は渋谷向山古墳ではとの考えもあるようだが、渋谷向山古墳を崇神天皇の墓とする
と倭の五王に比定される天皇がある程度特定されていることから、その間の天皇の治世が窮屈になり過ぎるように思える

行燈山古墳の墳形が前方部が少し開くいわゆる撥型であるのは女性の墓という事ではなく、祭祀王の墓という意味合いなのではなかろうか/そう考えると、
崇神が執政王と祭祀王を兼ねた大王であることを示す墳形なのではないだろうか

3世紀の中頃造営された箸墓古墳が卑弥呼の墓という蓋然性は高いようだ/シャーマンであった卑弥呼は初期ヤマト政権の第一次女王国の神聖王(祭祀王)
として活躍し、卑弥呼の後を継いだ台与の第二次女王国の時代に箸墓古墳が造営され、卑弥呼が再葬されたと考えることもできる
ここでは箸墓古墳造営以降、初期ヤマト政権の第二次女王国からヤマト政権(その最初の大王が崇神天皇だと想定)が樹立していくプロセスと、崇神天皇
以降のヤマト政権のゆくえをみてみたい

卑弥呼の死後、13才の台与が女王国を引き継ぐことになるわけだが、その台与が祭祀のみならず政治・軍事的運営を成し得たかと言えばそんなことはあり
得ないと思うのが自然だろうと思われる/つまり、台与は祭祀を司る神聖王(祭祀王)で、政治・軍事の執行をサポートする執政王の存在が欠かせない/
祭祀王は権威、執政王は権力の二重統治体制であったということか・・・/卑弥呼も然りだと思われ、卑弥呼・台与はシャーマンであり祭祀王として崇められた
が、実務(政治・軍事的な執行)は執政王としての男王が各連合の協業で遂行していたと思われる

シャーマニズムは特別な能力を持つ呪術者(シャーマン)を通じて神々につながっていると考える原始宗教の一つの形態で、シャーマンの多くは女性で、神が
かりして神の言葉を人々に伝える事のできる特別な人間であり、時として大きな力を持った歴史があるという/3世紀という時代にシャーマンを神聖王(祭祀王)
として崇めることは普通にあったことと思われる

倭国全域がまとまって行く中で、執政王の業績が大きく評価されるようになり、その権力も大きくなったと思われる/祭祀王である台与を政治・軍事面で支えた
執政王の後を継いで、神聖王(祭祀王)と執政王の両方を兼務する大王が登場する/それが崇神天皇であり、実在するとされている最初の大王(天皇)なのでは
ないだろうか

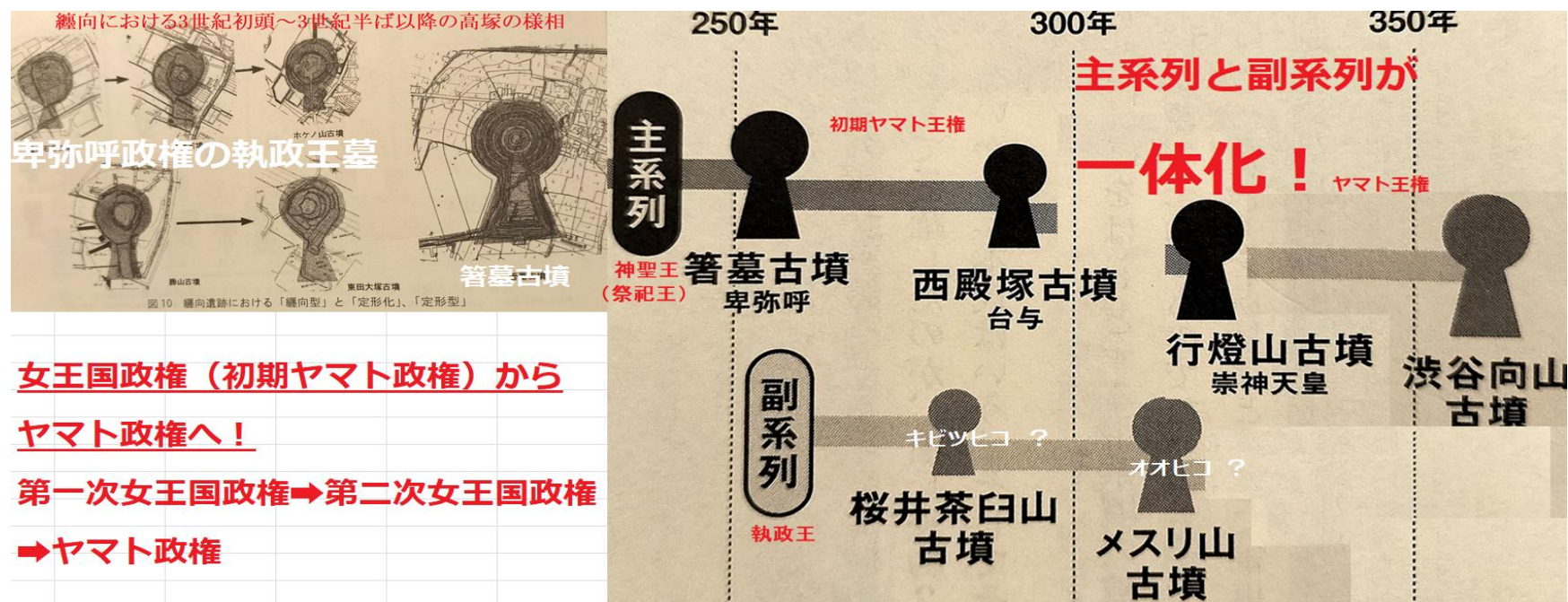
畿内(大和の地)に政権を支える実力集団が成長してくる/それは執政王を輩出・支援した母体(後の畿内に勢力を伸ばした主要な氏族)であり、台与の最後
の執政王は神聖王(祭祀王)と執政王の両方を兼務する大王(天皇)となったのではないだろうか/その最後の執政王が崇神天皇であったのでは・・・

卑弥呼・台与政権(初期ヤマト政権)からの崇神天皇以降のヤマト政権につながっていく道筋と政治状況については、以上のようなことのように考えられる
権威と権力を併せ持つ王の出現(執政王が祭祀権も行使する)、それこそがヤマト王権の誕生(崇神～垂仁～景行～・・・)の実相と思われるが・・・

大和の地に発生したヤマト政権の大王墓は、景行天皇の墓とされる渋谷向山古墳の造営を最後に、奈良北西部の地(佐紀盾列古墳群)へと移って行く

なお、以下の別稿を参照してください。

・佐紀盾列古墳群 その1 (奈良市)



倭王権と前方後円墳/岸本直文 より 一部改変及び合成